

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 天野 菜々実

私は8月19日から8月25日の七日間、語学研修で台湾に訪れました。その七日間で私はいろいろなことを経験し、学ぶことができました。台湾に到着した翌日の二日目、中国語の授業がありました。私は学校で中国語を履修しているのですが、中国語と台湾語は発音が少し違う部分があるということ学びました。自己紹介を台湾語でするときはとても緊張しましたが、元培大学のボランティアの学生さんや先生に助けられながら上手にすることができたので良かったです。中国語を教えてくれる先生が優しくて面白い先生で、とても楽しく授業を受けることができました。



三日目は午前中、台湾でコマの達人として有名になった方に色々なコマの技を見させていただき、みんなでコマ体験をしました。そして午後は新竹國泰病院の見学をしてショッピングセンターで買い物をしました。この日が初めての自由行動で、元培大学のボランティアの人たちとだいぶコミュニケーションを取ることができ、仲良くなることができました。四日目は午前中に病院見学をしました。この病院は新竹國泰病院と比較するとだいぶ大きな病院でした。病院内には展覧会やホテルのような入院部屋があり、日本の病院とは違った部分を知ることができました。午後は夜市に行きました。日本のお祭りの時ようにたくさん屋台があり、人もたくさんいました。そこでみんなで一緒に晩御飯を食べてたくさんいろんな話をしたのしかったです。五日目は私が一番行きたくて一番楽しみにしていた九份と淡水を丸一日観光しました。





想像以上にどちらも屋台が多く、この日は少し天気が悪かったけど、台湾の名物である小籠包など美味しい食べ物をたくさん食べることができ良かったです。最終日の六日目の夜は、お別れ会をしました。元培大学の学生さんたちがクオリティーの高いダンスや歌を披露してくれたり、手作りのプレゼントをくれました。私たちもダンスを披露しました。ダンスはあまり自信がなかったけど、先生と元培大学のみんなも一緒に踊ってくれてとても盛り上がったので良かったです。お別れ会が終わった後も、みんなとたくさん写真を撮ってたくさん色々な話をして最高の日を過ごすことができました。日本に帰る日、台湾の学生さんが空港までお見送りに来てくれました。お別れをするのはとても悲しかったけど、またいつか、今度は日本で再会できれば良いと思います。今回この語学研修に参加したことで、台湾について色々を知ることができ、国境を越えて交友関係を広げることができました。あっという間でしたが、本当に濃く充実した日々を過ごすことができ、とても楽しい七日間になりました。またこのような機会があれば是非参加したいです。



謝謝！

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 大和田 愛

私は今回の海外語学研修で台湾の文化に触れ、多くのことを学ぶことができました。  
その一部を紹介します。

## 台湾の匂いは独特！

台湾では多くの料理に香辛料が使われており、街中を歩くとその匂いに戸惑いました。私の友人の中にはその慣れない匂いに気分を悪くしてしまう子も…。私は比較的平気だったのですが、その後私たちの間ではその香辛料の香りを「台湾の香り」と呼んでいました。



可愛いタピオカ  
ミルクティーも  
ありました！



私の先輩のボランティアに参加していた方に病院先で会いました。

## 匂いの正体は…？

では、その匂いの正体は何なのでしょう？  
気になり、仲良くなったボランティアの友人に尋ねたところ、「八角」ではないかと言われました。

八角は、大半の台湾の夜市や九份などで売られている茶葉蛋（チャーイェタン）という煮玉子に使われていたりします。茶葉蛋は台湾のコンビニで、日本でいうおでんのように売られていました。

茶葉で煮詰められているという茶葉蛋はとてもおいしかったです、やはり例の「台湾の香り」がしました。



この研修で一緒に学んだすべての人  
に「謝謝！」

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 後藤 みづき

充実した7日間

8月19日から8月25日に元培大学で行われたサマースクールに参加しました。7日間という短い期間でしたがとても充実した日々を送ることができました。



台湾に到着したときはわくわく感と緊張で胸がいっぱいでした。台湾の学生は気さくで優しい人ばかりでした。彼らのおかげで7日間を楽しく充実して過ごせたと思います。

中国語講座では、基礎となる発音から自己紹介や挨拶、簡単な日常会話を学習しました。中国語には日本語にはない音やアクセント(舌を巻くなど)がありとても苦戦しました。しかし、ボランティアの学生たちが難しいところを丁寧に教えてくれたので少し発音できるようになりました。



病院見学では一般撮影や放射線治療の機械を見ました。

SHIMADZUは台湾でも有名なため、SHIMADZUの機械もいくつか置いてありました。実際に海外の病院で働いている放射線技師を見るのは初めてでした。いろいろな機械を使いこなして検査や治療している姿を見て、放射線技師という職業はどこの国でも必要とされていると感じました。また、日本の病院とは異なる点もいくつかあり良い経験になりました。



観光では地下鉄を移動手段として使いました。駅や車内が日本とは大きく異なっていました。観光で行ったところでは、台湾で有名な食べものや学生に教えてもらった美味しいものを食べました。味も食感も日本とは違うものが多く楽しんで食べることができました。

コマの体験では実際にコマを回してみました。日本のコマとは回し方が大きく異なっていたため慣れるまでが大変でしたが回すことができるようになりました。コマを教えてくれた先生はANZEN漫才のみやぞんさんに教えたことのある方でとても驚きました。また、お土産にコマをいただきました。



はじめはボランティアの学生と仲良くなれるか、しっかりコミュニケーションをとることができるかといった不安が多々ありました。しかし、日を重ねるごとに仲良くなりコミュニケーションもとることができるようになりました。日本語を話すことができる学生が多く、日本語を学びたいという意欲をととても感じ、異言語を学ぶ姿勢に刺激を受けました。

今回の研修を通して貴重な経験をたくさん積むことができたことをうれしく思い、携わっていただいた全ての方々に心から感謝します。ありがとうございました。

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1 回生 羽太 みづき

2018年8月19日～25日の間、私たち8人は海外語学研修（台湾新竹市 Yuanpei University）に参加した。関西空港から飛行機で約3時間かけて台湾へ向かった。

1日目夜に、Yuanpei 大学の寮に到着し、台湾特有の料理を食べた。日本では食べたことのない不思議な味がした。この不思議な味は香辛料の味だそうだ。

2日目は、朝食で小籠包を食べた。非常に美味しかった。午前は、中国語の授業を受けた。私が選択科目で選択している中国語の授業で学んだ発音と違うところが多くあった。台湾の中国語のほうが優しく聞こえるそうだ。午後は、ストローでエビを全員で作ったあと、校内を見学した。京都医療科学大学との繋がりを深く感じることができた。世界に2つしかない博物館も見学した。校内には心の健康を大切にするためのミュージアムがあった。

3日目は、午前コマの体験をした。先生は、日本の有名な番組でお笑い芸人にコマを教えていた先生だった。コマをお土産としてもらった。午後は新竹國泰病院を見学した。私がいちばん衝撃を受けたのは、タピオカジュースが出迎えてくれたことだ。日本ではありえないのではないだろうか。

4日目午前には3日目に見学した病院とは別の、壠新病院へ見学に行った。この日に見学した病院はホテルのようだった。午後は龍山寺と台北101に行った。龍山寺ではおみくじを引いた。台北101では、台湾で名物のパイナップルケーキを安く買うことができた。その後、士林夜市で小籠包を食べた。

5日目は、午前映画のモチーフとなった九份に観光に行った。九份は雨がよく降るらしく、傘が欠かせない。午後は淡水に行った。美味しいポテトの食べられる隠れ家のようなカフェに連れて行ってもらった。

6日目は、午前中国語でぞうさんの歌を歌い、竹で遊んだ。午後は送別会があった。今回の海外研修の写真をまとめたスライド、ダンスや歌の出し物を楽しく見た。長いようで短い1週間だった。

私は、この海外研修で自分の語学力の低さを改めて実感した。台湾の学生さんは日本語で問題なく日常会話をしていた。私は中学から約6年間は英語を学習しているが、日常会話もろくにできない。語学の勉強に力を入れたいと強く思った。



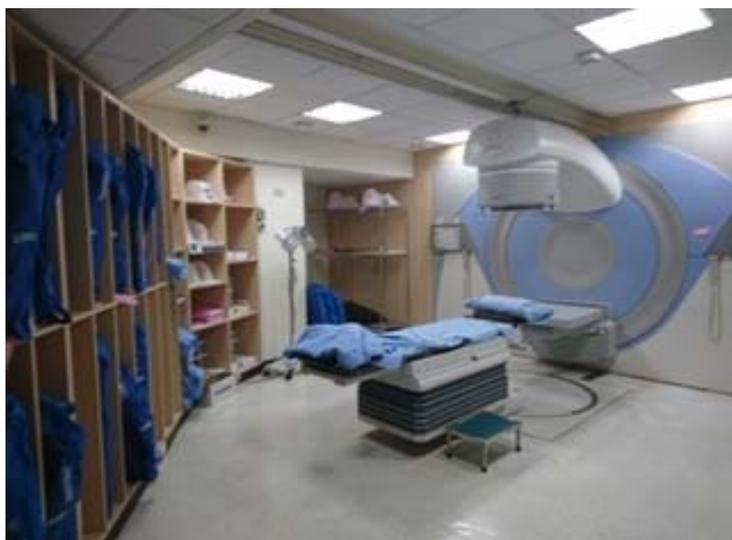
# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 藤岡 あいり



私は台湾に行って特に印象深く記憶に残ったことが3つあります。

1つ目は、2日目の午後に訪れた診療放射線の博物館です。ここでは台湾の診療放射線の歴史を学ぶことができました。レントゲンを台湾にいつ、誰が、どのように伝えたのか、その後、放射線医学が台湾でどのように広まったのかをガイドの方が詳しく説明してくださりました。博物館には実際の医療機器も置いてあり、目の前で説明を聞くことにより更に理解を深めることができました。(左の写真)



2つ目は、4日目に訪れた台湾の総合病院です。私たちは病院内をまわり、実際の仕事の様子や医療機器の扱い方などを見学しました。また、総合病院の様々な施設も見学し、日本とは違う、台湾ならではの病院内施設についても学ぶことができました。中でも、私が一番驚いた違いは一つの病院の中に、スポーツ選手用のジムと美容整形の病院も一緒に入っていることです。美容整形の手術は台湾も日本と同じように保険がききません。保険がきかない機関も同じ一つの病院の中に入っていることに特に驚きました。(上と左の写真)

ることに特に驚きました。(上と左の写真)



3つ目は、5日目に訪れた九份です。千と千尋の舞台で有名な九份で、行く前から一番楽しみにしていた場所です。九份は山の上にあるため雨が降っている日が多らしく、私たちが訪れた日も雨でした。狭い通路にたくさんの屋台がびっしりと並んでいて、食べ歩きをしながら観光しました。おいしいものもありますが、中にはとても臭い臭豆腐の屋台もあるので吐きそうになるのをこらえながら歩く場面もありました。九份をまわる時、台湾の学生と一緒にまわってくれたおかげで食べ物やお土産をスムーズに買うことができました。



私が今回台湾で食べたものの中で一番おいしかったものは小籠包です。寮の朝ごはんではじめて食べたのですが、とてもおいしかったため4日目の夜に夜市でも買って食べました。そして、九份でも食べました。台湾の料理は食べた後に鼻から抜けていく香りがきつく、得意ではなかったのですが、小籠包は口に合い、おいしかったです。人が多く、とても狭い屋台の間を一行に並んで、みんなで臭いに耐えながら歩いている瞬間に台湾の文化を一番感じる事ができたと思います。

私の中で特に記憶に残ったことは、この3つですが、他にも、臭いコンビニやグループごとに作った看板、台湾の地下鉄に乗ったことや、最終日のお別れ会など、台湾でできた思い出はたくさんあります。海外語学研修で学んだこと、感じたことは今後の学校生活や自分の人生において糧になることがわずかでもあると思います。私は、台湾の病院見学などの様々な貴重な体験ができるこの海外語学研修に参加してとても良かったと感じています。

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1 回生 松田 ラリサスエミ

2018年8月19日～25日の間、私たち8人は海外語学研修（台湾新竹市 Yuanpei University）に参加した。私は台湾訪問は2度目となる。

国際線到着フロアには、元培醫事科技大學の学生ボランティアの方が出迎えてくれた。そして台湾桃園空港から約2時間のバス移動を経て新竹にある元培醫事科技大學に到着した。その日の夜には台湾の伝統料理を食べた。

ガーリックの効いた野菜炒めに、台湾独特の味がしたひき肉と卵を煮込んだ料理だった。



2日目の朝は小籠包や肉まん、餡まんなど日本ではあまり朝食では食べないものであった。しかしどれも食べやすく非常に美味しかった。

中国語講座では基礎の発音から学んだ。台湾の発音は私が選択科目で習っている大陸の中国語よりも柔らかい感じがした。

また講師の陳先生は波羅蜜（ジャックフルーツ）を持ってきてくださりみんなで頂いた。波羅蜜は非常に独特な匂いをしており食べるのにかなり躊躇った。匂いはエナジードリンクのようであり、味は今までに食べたことのない味がした。私はあまり好みな味ではなかった。

昼食後の講座では陳先生にストローでエビを作る方法を教わった。

先生とコミュニケーションをとることのできる非常にいい機会だった。講座後、構内にある影像醫學博物館を見学した。館内には台湾に初めて導入された時のX線撮影装置が展示されていた。医療現場における放射線の利用の歴史を実際に目で見ることができ、非常に分かりやすかった。その後構内に設置され撮影装置を見学した。MRI室は清潔感があり広々としていた。次に構内にあり学生の心のケアをするための施設である芸術センターを見学した。とても落ち着いた空間で居心地が良かった。

3日目は午前コマを教わった。講師の方は「イッテQ」でお笑い芸人ANZEN漫才のみやぞんにコマを教えた方である。講師の方のパフォーマンス後、コマを体験しました。コマは回すことは出来たものの、投げる位置のコントロールが非常に難しかった。

その後、國泰醫院の新竹分院を訪れた。日本でいう総合病院であり大きな病院であった。院内の施設はかなり充実しているものなのではないかと感じた。日本と異なる点としてMRIなどの検査室がとてもオープンであると感じた。

國泰醫院見学後、台湾最大級のショッピングモールBigCityへ行った。店舗数も充実しており、とても楽しめた。

4日目は台北市にある壠新醫院を訪れた。こちらの病院は非常に大きく施設も整っていた。VIP病棟はホテルのようだった。

壠新醫院には患者の心のケアを目的とした美術館のような施設があった。

元培醫事科技大學に芸術センターがあるように、台湾の方が芸術に関心を持っているということが分かった。壠新醫院には他にもスポーツ選手を対象としたケア施設があった。

壠新醫院見学後、台北101を訪れお土産などを購入した。次に龍山寺を訪れた。龍山寺ではおみくじを引いた。おみくじのように大吉や中吉などの記載はなく、お参りした際の神様への質問の回答が書かれているものだった。内容はかなり難しいものだった。龍山寺訪問後、地下鉄を利用して夜市へと出掛けた。夜市では夕飯として小籠包を食べた。

5日目は千と千尋の舞台のモチーフとなった九份へ行った。多くの屋台が並んでおり観光客も多かった。お土産屋さんにはジブリのグッズが多く売られていた。しかし臭豆腐のを売っている屋台の周りにはとてつもなく強烈な匂いが漂っていた。それでも赤い提灯や飾りなどが鮮やかで見応えがあった。九份での観光の後、淡水へ行った。淡水にも多くの屋台や店があり賑わっていた。淡水では元培醫事科技大學の学生ボランティアの方に勧められたカフェを訪れた。テラスからの眺めがとても綺麗だった。カフェの名物バター紅茶は甘くて美味しかった。

6日目は最後の中国語講座を行った。中国語で「ぞうさん」を教わった。台湾の学生に直接教わりながら練習をした。やはり日本語にはない発音をするのは難しかった。そして最後に台湾伝統の遊びをした。竹坊を2本使い、音楽に合わせてリズムをとりその間をステップしていく遊びだ。

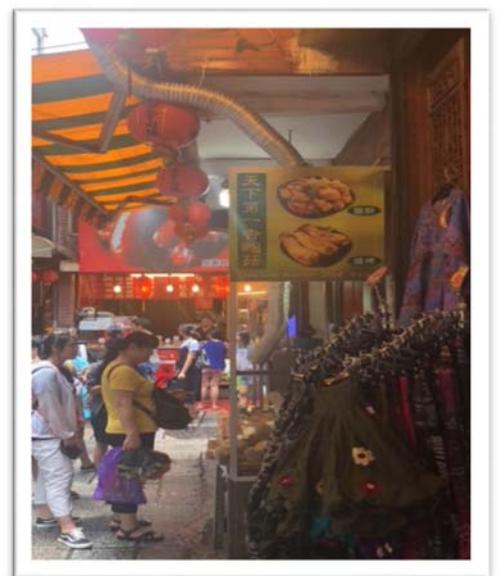
意外と合わせるのが難しく、スピードアップもするので楽しめた。

夜に行われた歓送会では台湾の学生さんが日本語での歌やダンスを披露したり、台湾で有名な曲を歌ってくれた。私たちも恋するフォーチュンクッキーを先生方とともに踊り非常に盛り上がった。その後も台湾の学生から名前の漢字をビーズで作ったもの頂いた。

まとめとして、台湾の学生は日本語がとても上手で衝撃を受けた。

自分の中国語の能力がいかに低いのか分かった。台湾の学生の言語を学ぶ姿勢は非常に積極的だった。私も後期にまだ中国語の講義があるので、少し自分の意思を伝えられるレベルになれるよう努めたいと思った。

また病院の施設を見学することで日本との違いを知ることができて良かった。1週間の海外研修は長いようで短く感じた研修であり、レベルの低い自分の現状に気づくことのできたとても良い研修だったと感じる。



# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 岡内 和輝

私は、8月19日から8月25の7日間台湾での海外研修に参加しました。

以前から海外に行きたいと考えていた折に、今回のこの研修の話聞き参加した次第です。今回参加した学生は2回生の男子が2人、1回生の女子が6人の合計8人でした。当初、男子が二人しかいないということでとても不安でした。しかし、一緒に準備を進めていく中で男女共に打ち解けることができ、出発前にはその不安も無くなりました。

出発当日は大きな問題もなく、全員で無事関西空港から台湾の空港に向けて出発することができました。

到着後、私たちを台湾の学生さんが出迎えてくれました。その中には7月に京都医療科学大学に研修に来ていた学生さんもいて、一緒に再会を喜びあいました。

その後台湾の学生さんの用意してくれたバスで元培大学まで移動しました。私たちが海外研修のときに宿泊したところは台湾の学生さんの所属する元培大学の寮でした。私たちが宿泊したときはまだ他の学生さんはいなくて、ほとんど貸し切りに近い状態でした。寮に到着後、荷物を部屋まで運んだ私たちを元培大学の学生さんが一緒にトランプの「大富豪」をして遊ばないかと誘ってくれました。元培大学の学生さんは皆日本語がとて



も上手で、日本語と少しの英語で会話することができました。そのため、コミュニケーションをとれるか不安だった私も向こうの学生さんとすぐ打ち解けることができたのでした。それから中国語を教してもらったり、病院研修を一緒に行ったり、街を案内してもらったりと一緒に楽しい日々を過ごすことができました。一日の終わりは決まって誰かの部屋に集まっているような話やゲームをしました。向こうでは日本のアニメが流行っているらしく夜遅くまで話し込むこともしばしばありました。歓送会のときには元培大学の学生

さんからサプライズでそれぞれのネームプレートを作ってもらったり、歌やダンスを披露してもらいました。私たちからも京都を紹介するスライドの発表や「恋するフォーチュンクッキー」のダンスを披露しました。恋するフォーチュンクッキーは向こうの先生や学生さん、京都医療の先生も交えてみんなで踊りました。とても盛り上がり、とても楽しかったです。そして、最終日元培大学の学生さんは空港までお見送りをしてくれました。私たちは別れを惜しみつつもあいさつを交わし台湾を出発して日本に帰国しました。今回の研修で私は多くのことを学びました。中国語講座では語学の違いやその難しさについて学びました。また病院研修などでは業務や病院の作りなどが日本とはどう違うのか実際に行ってみないとわからないことを知ることができました。そして私

自身、今回の研修を通して一緒に行ったメンバーとこれまで以上に仲良くなれたのと台湾の学生と友達になれたことがとてもうれしかったです。台湾の研修に行くことができて本当に良かったと心から感じるそんな海外研修でした。



# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 中西 雄樹

私は、8月19日から8月25日の7日間台湾で海外語学研修に参加しました。参加したきっかけは、先輩からの勧めでした。最初はとても不安でしたが、思い切って参加させていただきました。参加人数は2回生が男子2人、1回生が女子6人の計8人でした。その中で、私はリーダーをさせていただきました。みんなをまとめられるかとても不安に思いながら、台湾の語学研修の初日になりました。この8人の中には、海外がはじめてな人もいて、空港からワクワクしている人もいました。飛行機に乗り、台湾に到着しました。空港に元培大学の学生さんが迎えに来てくれて、ほっとして、とても嬉しかったです。そして、7日間宿泊



する部屋に荷物を置いたら、すぐに元培大学の学生さんが部屋に遊びに来て、「トランプをしよう」と誘いに来てくれました。元培大学の学生さんとコミュニケーションがとれるかが心配でしたが、元培大学の学生さんは日本語がうまく、日本語と少しの英語でコミュニケーションがとれました。そのあとも、一緒に中国語を教えてもらったり、一緒に病院見学に行ったり、一緒にショッピングモールに行ったり、一緒に観光したりと、とても楽しい日々を過ごさせていただきました。それらが終わって、夜部屋に帰ると、最初は元培大学の学生さんが私の部屋に来ていましたが、私から元培大学の学生の部屋に遊びに行く関係にいつの間にかなっていました。その時には、日本のアニメを見たり、乃木坂46やNMB48などの日本のアイドルの曲を聴いたり、台湾で人気の日本のものを教えてもらったりと、朝から夜まで元培大学の人たちと遊んでいたと思います。歓送会の



時には元培大学の学生からプレゼントをもらったり、ダンス、歌を披露してくれました。私たちも「京都の魅力」のスライドや「恋するフォーチュンクッキー」のダンスを披露しました。恋するフォーチュンクッキーは、京都医療の先生や元培大学の学生さん、先生と一緒に踊りました。私がセンターで踊って、みんなで踊ったので、とても盛り上がり、とても嬉しかったです。

最終日の空港では、涙が出そうになるくらいお別れをするのがとても悲しかったです。もっと元培大学の友達と一緒にいたい気持ちがありました。この7日間本当に学ぶこともたくさんあり、とても楽しかったです。本当に、台湾語学研修に参加して、いい経験ができ、いい仲間にも会えました。この海外研修は、私にとって一生の大切な思い出になりました。台湾語学研修で学んだことを将来にも生かしたいと思いました。

